

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～



平成29年10月
川越町教育委員会
川越北小学校

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

平成29年10月6日

川越町教育委員会

川越町立川越北小学校

本年4月、小学校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



1. 学力・学習状況調査結果

全国学力・学習状況調査について

A問題とは、主として「知識」に関する問題です。(身につけておくべき基礎的な知識や技術)

B問題とは、主として「活用」に関する問題です。(知識や技能を実生活の場に活用する能力)

(1) 川越町小学校

□全体の傾向・・・二極化に改善傾向が見られ、全国及び県の正答数分布曲線に近づく結果となっている。

国語 A：正答率のやや低い児童が一部見られる。

国語 B：正答率のやや高い児童の割合も多いが、正答率の低い児童が一部見られる。

算数 A：正答率のやや高い児童の割合も多いが、正答率のやや低い児童が一部見られる。

算数 B：正答率の高い児童も一部見られるが、正答率のやや低い児童の割合が多い。

□強みと弱み（強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」）

	A問題	B問題
国語	◎ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いることができている。 ◇目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読む力に課題がある。 ◇問題によって、漢字の読み書きの正答率に、ばらつきがある。	◎目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えることができている。 ◇目的や意図に応じて文章から引用して書くことを苦手とする児童の割合が多い。 ◇会話のやり取りの文章を読んで相手の発言の意図が捉えられない。 ◇与えられた条件に応じて記述解答することが苦手な児童が多い。
算数	◎全体的に無解答率が低く、どの子もよく取り組んでいる。	◎示された考えを解釈し、他の場合にあってはめて処理できる児童が多い。

算数	◎数と計算領域の問題については、理解できている児童が多い。 ◇任意単位（同種の量の幾つ分）による測定について理解できていない児童が多い。 ◇表に示された数値の意味を理解し、整理することを苦手としている児童が多い。	◇数学的表現を用いて自分で考えたことを文章で説明する力に課題がある。 ◇日常生活の問題解決のために、必要な情報を選択し数学的に処理したり、示された方法を場面に応じて適用したりすることができない児童の割合が多い。
----	---	---

（２）児童質問紙による生活調査結果

①学習時間帯

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師含む）

・学習時間が1時間以上の児童の割合・・・全国：64.4％ 川越町：66.7％

***毎日1時間以上学習する児童の割合は全国平均よりやや多い。家庭学習に対する意識が高まっている。**

②予習・復習

Q：家で宿題をしていますか。

・宿題をしている児童の割合・・・全国：96.9％ 川越町：97.7％

Q：家で学校の授業の予習をしていますか。

・予習を（あまり）していない児童の割合・・・全国：58.9％ 川越町：56.6％

Q：家で学校の授業の復習をしていますか。

・復習を（あまり）していない児童の割合・・・全国：46.0％ 川越町：48.0％

***宿題についてはほとんどの子どもたちが取り組んでいる。しかし、予習・復習に時間をかける子の割合が低い。**

③読書習慣

Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）どのくらい読書をしますか。

・1日の読書が30分以上の児童の割合・・・全国：36.5％ 川越町：41.0％

・読書を全くしない・・・全国：20.5％ 川越町：19.4％

***半数以上の子どもたちがほぼ毎日読書をしている。しかし、「全く読書をしない」子どもたちの割合が約20%となっている。**

④基本的生活習慣

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

・起きている児童の割合・・・全国：58.9％ 川越町：54.3％

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

・寝ている児童の割合・・・全国：38.2％ 川越町：38.0％

***起床・就寝時間とも不規則な児童がやや多い。**

⑤自尊感情

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・（どちらかといえば）あると答えた児童の割合・・・全国：77.9％ 川越町：67.4％

***自尊感情の高い子どもの割合が低い。**

⑥キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

・持っている児童の割合・・・全国：70.0% 川越町：74.4%

***将来の夢や目標を持っている児童の割合が高い。**

⑦家庭でのコミュニケーション

Q：家の人と学校での出来事について話をしていますか。

・(どちらかといえば)話をしている児童の割合・・・全国：78.1% 川越町：75.2%

***家庭でのコミュニケーションの機会がやや少ない。**

⑧ゲームの時間

Q：普段(月～金曜日)1日にどれくらいゲーム(PC、スマートフォン等のゲームを含む)をしますか。

・1日に3時間以上ゲームをしている児童の割合・・・全国：17.6% 川越町：31.8%

***約30%の子どもたちが1日に3時間以上ゲーム等に時間を費やしている。**

⑨メール・インターネットの時間

Q：普段(月～金曜日)1日にどれくらいメールやインターネットをしますか。

・1日に1時間以上している児童の割合・・・全国：20.5% 川越町：27.3%

***約30%が1日のうち1時間以上メールやインターネットに時間を費やしている。**

(3) 学校質問紙の結果からみえる児童生徒の姿

① 見通しをもった学習・確かな学力(めあてと振り返りの提示)

「授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れたか」という問いに対し、本校は学校質問紙に「よく行った」と回答しています。これに対し、児童質問紙において、児童の82%が「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていた」と回答しています。また、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか」という問いに対しても、本校では学校質問紙に「よく行った」と回答しています。これに対して、児童の80%が、「学習内容を振り返る活動を行った」と回答しており、学校の取り組みと児童の受け取りが概ね一致しているといえます。引き続き「何を学ぶのか」「何ができるようになったのか」を明確にさせた授業を展開していきます。

② 落ち着いた学習環境の維持(学習規律)

「学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど)の維持を徹底したか」という問いに対し、本校では学校質問紙に「行った」と回答しています。これに対し児童質問紙において児童の82%が「学校のきまり(規則)を守っている」と回答しており、学校の取り組みと児童の受け取りが概ね一致しているといえます。川越町で共通した『学びのルール(川越スタンダード)』に取り組むことにより、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われています。学習規律を整え落ち着いた学習環境の中で粘り強く学習課題に取り組む姿勢を育てていきます。

③ やる気を生み出す個別評価(自尊感情)

「学校生活の中で、児童一人一人の良い点や可能性を見つけ、児童に伝えるなど積極的に評

価値したか」という問いに対し、本校は学校質問紙に「よく行った」と回答しています。これに対し児童質問紙において「自分にはよいところがある」と回答しているのは、児童の70%という結果になりました。今後も意欲をもって挑戦しようとする機会に設定し、一人一人の良い点や可能性を見つけ、積極的に評価および承認を行うことで自尊感情を高めていきます。また、「将来の夢や目標を持っている」という問いに対し、85%の子が「持っている」と回答しています。自尊感情を高めながら、具体的な展望が持てるようキャリア教育を進めていきます。

2. 教科に関する調査結果から見えてくることと対策

(1) 調査結果から見えてくる課題

国語

- 与えられた文字数や条件に合わせて、よりよくまとめたり書いたりする力に課題がある。
- 初めて向き合う文章に対して、根気よく読んだり考えたりすることが苦手である。
- 複数の資料から必要な情報を選択し、関連付けて思考することに慣れていない。

算数

- 数と計算領域の問題については理解できている児童が多いが、数学的表現を用いて自分で考えたことを文章で説明する力に課題のある児童も多い。
- 任意単位（同種の量の幾つ分）による測定の理解ができていない児童が多いという結果から、量の測定の学習における「直接比較→間接比較→任意単位による測定→普遍単位（多くの人々が共通に利用する単位）による測定」といった学習経験を活かして解答できていない児童が多いことが伺える。

(2) 課題を解決するための手立てや指導改善について

全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、児童生徒自身が「何を学んだか」「どんなことができるようになったか」を実感できるよう取り組みを進める。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちの「できた」という実感へつなげる。
2. 自分の考えを整理して書く力をつけるためのノート指導を行う。
3. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実
 - ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。
2. 語彙を豊かにする指導の工夫
 - ・漢字や語句、比喻や反復などの技法を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を数多く取り入れる。
 - ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりする。読書タイムを設定するなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

3. 自分の考えをまとめる活動の充実
 - ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふり返りの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。
 - ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
4. 音読の習慣
 - ・特に小学校においては、声に出してしっかり読むことを習慣づけて、正確に読み取る力の基盤作りを徹底する。

算数

1. 基礎的な力をつける時間の確保
 - ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。
2. わかる授業を目指した授業展開の工夫
 - ・「なぜ普遍単位（多くの人が共通に利用する単位）が必要なのか?」「日常生活の中で関数を使うと便利な場面は?」など、日常生活や社会の事象や数学の事象から課題を見出し、主体的に取り組む数学的活動を取り入れた授業を展開していく。
 - ・数学的な表現を用いて「〇〇であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
 - ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
 - ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。
3. 習熟度を加味した少人数授業の展開（高学年）
 - ・レディネステストにより児童の実態を把握し、習熟度を加味した少人数授業を行う。
 - ・適宜クラス編成を見直し、児童の強み・弱みに応じた編成を行う。
4. 重点教材の設定
 - ・2つの数量の関係の捉え方など、児童の弱みを含む単元を重点教材と位置付け、授業の中で強化を図る。

3. 町教育委員会による手立て

（１）少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的基本的な力の向上を目指します。

（２）きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員の配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人ひとりの子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

（３）学力向上推進委員会の機能的な運営

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

（４）校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教委の指導主事が各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修へ

の指導・支援を拡充します。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

(5) 家庭学習および読書活動の推進

三重県下で展開されている学力向上県民運動と連動しながら、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、「家庭学習の定着に向けた取組の必要性および具体的な家庭支援法」を各家庭へ呼び掛けていきます。また、「読書旅行（読書日本一周・読書世界一周）」の取り組みを推進し、小学校低学年から語彙量を増やしていきます。

(6) 自己有用感の向上

「子どもが挑戦する場」を学校や家庭・地域で引き続き意図的に設定していきます。これらの機会を活かし、子どもたちの活動の結果だけを見て評価するのではなく、個々の伸長を見つめ承認していくことで自己有用感の向上を図ります。「挑戦」→「自信」→「成長」→「興味・関心」→「挑戦」・・・というサイクルを大切に児童生徒の自尊感情を高めていきます。

4. 川越北小学校の取り組み

(1) わかる授業に取り組みます！

「めあて」と「ふりかえり」のある授業を行います。子どもたち自身に『何を学ぶのか』を意識させ、『何がわかったのか』、『何ができるようになったのか』を振り返らせることで見通しを持った学び、確かな学力をつけていきます。子どもたちが「わかった」「できた」「楽しい」と実感できる授業に取り組みます。

(2) 学び合いを大切にします！

子どもたちは、授業の中で互いの考えを聴き合い、考えを広げ、新たな気づきを生み出しながら学んでいきます。子ども同士が関わり合えるようペアやグループでの活動を取り入れた学びを展開していきます。

(3) 基礎基本の徹底をはかります！

漢字の読み書き、四則計算など学習を進める中で基礎基本となる力を授業の中で扱うことはもちろんのこと、定着を図るために家庭学習や北小タイムを使い、低学年のうちから確実に身に付けさせていきます。

(4) 家庭学習を充実させます！

「家庭学習の手引き」をもとに、子どもたちが自ら学ぶ習慣を身に付けていけるよう指導します。また、学期ごとに「家庭学習チャレンジ表」を使って学習時間・学習内容の改善に役立てます。さらに、自主学習の進め方を提示し、自ら学ぶ力を習慣化させます。

(5) 読書活動を推進します！

「朝の読書タイム」を継続し、読書する時間を確保します。図書館まつり、読書旅行、司書による読み聞かせなど、読書活動を推進していきます。また、『「みえの学力向上県民運動」に係るチェックシート』を使って読書時間・読書内容の改善に役立てます。

(6) 自ら学ぶ場をつくります！

全職員による複数支援での夏休み算数教室を行い、自主的に学ぶ場をつくります。また、放課後学習会など、子どもたちの学習支援を行います。

(7) 教職員の資質向上をはかります！

学び合いが活発になる授業展開を工夫し、授業研究に取り組みます。子どもたちの強み・弱みを把握し、思考力・判断力・表現力が身につく授業展開を工夫します。また、わかる授業が行えているか、授業研究を通しての検証を行い、授業改善に努めます。

5. 家庭・地域へのお願い

(1) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、ほめる、励ますことで、子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

- 毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
- テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- 机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。
- 教科書やノート、学習用具の整理整頓に心がける。

(2) テレビ、ゲーム、スマートフォン等の上手なつきあい方を教える・・・ルール作り

全国に比べて当町の子どもたちは、テレビ、ゲーム、スマートフォンに費やす時間が多い傾向にあります。テレビやゲームを楽しむ時間や、携帯電話およびスマートフォンを使用する時間、方法などについて、家庭でのルールづくりをしていただきますようお願いいたします。また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の望ましい活用については、大人の行動から見本を示すことができるようにしましょう。

例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。

夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。

リビング以外でパソコンは使わない。

など

(3) 難しいことにも挑戦する心を育てる・・・ほめて伸ばす

全国的に、自分自身になかなか自信が持てず、自分で考えたり、自分で決めたりしにくい子どもが増えています。「家族で決めた約束が守れた」「頼んだ仕事できた」など、子どもが何かを継続して行ったときや、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等に注目するのではなく、過程も含めて、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。人のことを考えず、我慢のきかない子どもにならないように、悪い事は悪いと教え、目指すべき良き行動がとれるように子どもを導いていきましょう。

(4) 親子で読み聞かせや読書をする機会を大切に・・・家庭読書習慣

語彙ごいの量と質の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。はじめは受動的な読書かもしれませんが、しかし、その時間を継続的にもつことで、やがて子ども自らが本と向き合うことのできる能動的な読書へつながっていくと考えます。ぜひ、子どもたちの「本を読んでほしい」「本を読みたい」という気持ちを大切にしていきましょう。

みえの学力向上県民運動

学校・家庭・地域の教育力を高めよう！

みえの学力向上

検索

